

今号の内容

◆ブックスタート 10周年	ページ
◆企画展「発掘された柳川」ほか	2~3
◆おもてなし文化創造事業委託者募集ほか	4
◆夏休みの水の事故や熱中症に注意ほか	5
◆住宅リフォーム補助の受付開始ほか	6
◆市政や社会教育への功労者を表彰	7
◆参議院議員通常選挙結果ほか	8
◆市民のひろば (10-11) ◆川柳 (11) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (12-13) ◆情報わいど (14-19) ◆がんばったね (20) ◆柳川にこの人あり 加藤巧さん (20) ◆もちふみデビュー (21) ◆保健ガイド (22-23) ◆新市史抄片 (24)	9



赤ちゃんのしあわせ広げる
ブックスタート

100年前の沖端

この写真は御花に残る膨大な古写真の中の1枚で、100年前の沖端を写している。掘割沿いに建つ御花の土蔵は、ほぼ完成しているよう



西洋館から西を望む (立花家史料館蔵)

あるが、足場の丸太が見えている。西洋館をはじめ、御花の建物が完成したのは明治43年だから、そのころの撮影と考えられる。すると、この沖端の景色は厳密に言うと103年前となる。

西洋館の小屋裏には、屋根の上にあがるための通路と階段が設けられており、この写真は西洋館の屋根の上から撮影したと推測される。さて、掘割の両側に並び建つ住宅は、その多くが茅葺(葦草などを含む)で瓦葺は少ない。写真右側に一際大きく見える光国寺本堂は瓦葺であるが、その横に建つ庫裏は茅葺である。平入(建物の長手側に入口のある場合)の住宅がほとん

どで、屋根形状は寄棟造と切妻造が主である。切妻造の場合、奥に長い建物が続いている。それは、切妻造から少しだけ上に三角形の屋根を出し、反対側は寄棟造で納めている。このような造りは、写真には写っていないが、明治初期の北原白秋生家と同じであるので、近世からの伝統的な造りと言えよう。瓦葺では他の地域でも目にするが、茅葺では珍しい。

ところで、写真右端から2軒目の住宅は現存しており、現在、煎餅の製造販売で親しまれているお店である。この住宅は明治20年に建てられていることが棟札で確認でき、上述した住宅の造りを残していて貴重である。100年前から現存し続けているのは掘割とわずかな住宅ではあるが、柳川らしさは今日まで維持されているだろう。この良き空間は後世に継承されるべきであり、そのためには沖端を大切に思う気持ちを一人一人が持つておく必要があるであろう。

市史編集委員 松岡高弘

編集後記

●参議員選挙の投票事務に従事。いつも不思議に思うのが開票が始まっていないのに、続々と流れる当選確実のニュース。今から開票する側としては「なんで分かるの?」と少しテンションが下がる。開票が始まってから、当選確実のニュースは流してもらえないか。(英二)

●下の息子がお泊り保育だった。通っている幼稚園では年長児が1学期の終業式の日に、園に1泊するのが恒例行事。そっちは自分が通っていた幼稚園は昔、キャンプ場に泊まっていた。夜のキャンプファイヤーは楽しかったが、お腹を悪くしてカレーを食べ損ねたことを思い出した。(賢治)

●5月にあった同窓会で友人から広報の編集後記に自分のことを書いてくれと頼まれた。書いてもつまらないと思い、これまで見送ってきたが、先日彼から「まだか」と迫られた。30歳目前の男の熱意がこんなところに向けられるのかと感心し、やっと彼のネタを書く気になった。(和久)

人のうごき

平成25年6月末現在

- 人口 70,617人 (前月比 11)
- 男 33,426人 (11)
- 女 37,191人 (0)
- 出生 45人、死亡 56人
- 転入 128人、転出 106人
- 世帯数 24,896世帯 (9)